



環境工学講座

准教授

たてだ まさふみ
立田 真文

工学博士
(大阪大学・平10)

■経歴

大阪工業大学夜間部応用科学科卒(昭63.3) / 産業廃棄物処理業幸徳立田商店(昭59.4～平2.8) / 米国ドレクセル大学大学院環境工学科修士課程修了(平5.12) / 米国ドレクセル大学大学院環境工学科博士課程中退(平6.9) / 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了(平10.3) / 志村化工株式会社事業開発室(平10.4～11.3) / 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻環境システム講座助手(平11.4～14.3) / 富山県立大学短期大学部助教授(平14.4～19.3) / 同准教授(平19.4～21.3 学校教育法改正による職名変更) / 富山県立大学工学部准教授(平21.4～) / 富山県立大学工学工学研究科准教授(平25.4～)

担当科目

資源循環工学 / 環境物理化学および演習 / 資源循環工学実習 / トピックゼミⅡ / 専門ゼミ / プレゼンテーション演習 / 環境工学実験 / 卒業研究 / 廃棄物資源学(大学院)

専門分野

循環資源機能・安全工学 / 循環資源応用工学 / 廃棄物発生抑制学 / 環境教育・啓蒙(環境創作楽語、英語楽語)

論文・報告

「Establishment of a Recovery Process of Heavy Metals from Municipal Solid Waste Incineration Ash (都市ごみ焼却灰から重金属回収プロセスの構築に関する研究)」(学位論文)

Ryoko Sekifuji, Le Van Chieu, Masafumi Tateda, and Hiroshi Takimoto (2020) Sustainability of a rice husk recycling scheme, International Journal of Recycling of Organic Waste in Agriculture, 9: 411-421.

Ryoko Sekifuji, Le Van Chieu, Masafumi Tateda, and Hiroshi Takimoto (2021) Solubility and physical composition of rice-husk ash silica as a function of calcination temperature and duration, International Journal of Recycling of Organic Waste in Agriculture, 10:19-27.

著書

「くるくるくるりんまなぶくん(共著)」(電気書院、2009)

「ごみゼロ社会は実現できるか(共著)」(コロナ社、2006)

「ロマンティック廃棄物(単著)」(電気書院、2006)

「技術予測レポート2023: シェール燃料時代に対応する地域分散型エネルギー - もみ殻の有効性と廃漁網の可能性 -」(日本能率協会総合研究所、2013)

立田真文(2017) 第7章4 廃漁網の資源化の提案 - 鉛に注目して、- 材料の再資源化技術事典、549-554、産業技術サービスセンターほか

所属学会

廃棄物資源循環学会 / 日本水処理生物学会 / 全国都市清掃会議 / 日本珪素医科学学会

学会委員等

Science Committee, Solid Waste Conference USA / 日本水処理生物学会編集幹事 / 廃棄物資源循環学会バイオマス部門幹事 / 日本珪素医科学学会理事

受賞歴

環境技術研究協会論文賞(2003)

Outstanding Contribution in Reviewing (July 2018, Elsevire)

現在の研究課題

- 1) 下水汚泥の削減と資源回収
- 2) Biomass Energy
- 3) もみ殻の完全循環
- 4) 採血管の適正処理に関する研究
- 5) もみ殻シリカの応用
- 6) 廃漁網のリサイクル
- 7) 廃棄物産業の社会的地位向上に関する研究
- 8) 学生服のリサイクル

共同研究キーワード

循環資源 / 機能、安全 / 応用 / 発生抑制 / 啓蒙 / バイオマス / 社会的地位向上 / 学生服